

## 地球温暖化対策の中期目標に対する意見の例

### (1) 我が国の温室効果ガスの中期目標(2020年)は、どの程度の排出量とすべきか

選択肢のなかでは 25%削減を支持しますが、それ以上の、2020年に1990年比30%削減が必要だと考えます。

#### 【理由】

子どもたちに地球温暖化の被害のツケを残さないためには、科学の警告に耳を傾け、日本も大幅削減の道をたどる必要があります。それに見合うのは 25%削減の選択肢ですが、それでも十分ではないと考えます。

### (2) その中期目標の実現に向けて、どのような政策を実施すべきか

CO2削減に努力する行為に経済的なメリットがえられるような政策や、省エネや再生可能エネルギーを拡大する政策を実施すべきです。また、省エネや再生可能エネルギーに投資することで、無駄なエネルギー消費と費用を減らす政策が必要だと考えます。それによって、経済再生の展望は開けると考えます。

### (3) その他、2020年頃に向けた我が国の地球温暖化対策に関する意見

・地球温暖化を確実に防ぐために必要な25%以上の削減目標を掲げ、そのためにどうしても負担すべきものは、子どもたちのために一定レベルの負担はしたいと思います。ただし、国の無駄な財政支出を減らし、また、負担をどのように減らしていくべきかの、知恵を十分に絞っていくべきです。

・世界のマーケットは温暖化対策に向かい、温暖化対策に投資して雇用の大幅な増加や、企業の国際競争力を図ろうとしています。日本の産業界のようにこうした動きに背を向け続けていると、若者の将来の職場も奪われてしまいます。本気で、地球温暖化対策と経済を考えて行動するべきです。

・中国やインドなどの主要経済国が参加するかたちで2013年以降の新しい枠組みに合意するためには、これまでに多く温室効果ガスを排出してきた日本が率先して野心的な削減目標を設定することが不可欠です。